

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第2回会議 議事要旨

日時	平成27年12月24日(金) 午前9時30分～11時30分	場所	本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議委員	内田委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本委員（清須企業懇話会幹事） 富田委員（愛知県教育委員会文化財保護室室長） 北山委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田委員（中日信用金庫理事長） 平野委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）	
	清須市	副市長、教育長、企画部長、事務局	

1 開会

- あいさつ（副市長）

2 議題

(1) 清須市人口ビジョン素案及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

- 資料説明（事務局・忠内副主幹）
- 委員意見・座長総括（各委員、内田座長）

①基本目標1について	
山本委員	シビックプライドは重要な言葉であり、施策のひとつに留まらずもっと高い位置付けにしてもよい。
富田委員	あしがるサイクルは活用可能性がある。市の良さを知り、体験・共有する機会にもなる。行政では情報発信に限界があるが、個人や企業の力を活かして発信してほしい。
北山委員	シビックプライドは学校教育も関連性が高い。若い世代は地域を知らない。知ることによって帰属意識や母校愛が生まれ、いずれは地域への定住につながる可能性もある。
舟橋委員	女性の視点、考え方を取り入れることが重要。名古屋への近接性や安価な土地で若い人も流入しているが、長期的には娯楽や買物飲食を市内で楽しめる場所の充実が必要である。計画の文言・表現は、若い人にも伝わるように、柔らかくしてほしい。
山田委員	清須の歴史、名古屋との関係性等を市民にしっかり認識してもらえよう、情報を体系的にまとめて発信する取組を進め、市民に誇りや愛着を持ってもらいたい。
平野委員	清須は規模の割に地域資源を持っている。打ち出し方にひねりを加える等工夫が必要。
【内田座長総括】	
幅広い世代からの市民参加型の取組を進めてほしい。ロコミの情報発信は影響が大きい。リニア開業で名駅エリアへの訪日外国人も増えるので、近接性を活かし、歴史・武将など訴求力のあるコンテンツをそろえて取り込みを図るべきである。様々な都市機能を市内で充実するのか、近隣との分担を効率的に図るのか、まちづくりの方向性も重要になる。	

②総合戦略全体の構成、基本目標2～4について	
山本委員	施策は優先順位を意識して実施してほしい。基本目標4は長期的な取組で、KPI設定等に留意が必要。戦略案中のイメージ図は、市民に伝わるよう工夫が求められる。
富田委員	土田カボチャを活かしたハロウィン・コスプレイベント等、柔軟な発想が必要。夏休みの教室を利用した市民の特技を活かした講座の開催等、市民参加型でお金をかけない事業も、アイデア次第で可能である。
北山委員	ワークショップでは女性も活発な意見があり、基本目標2で反映されているが、女性の目線、視点から更に確認してほしい。学校に高齢者を招く交流授業は、若者・シニアの双方にメリットを感じている。人付き合いに悩む若者が多く、体験の機会が必要である。
舟橋委員	会議を通じてボランティア活動の多さを知ったが、世間には実態が伝わっていない。情報発信の改善と、活動間の有機的な連携が必要である。官学連携では、若い世代と高齢者を結ぶ場として活動している。家庭での介護は、今後更に大きな課題となる。
山田委員	地域に関する情報が散乱・埋没しており、集約し総合的に結び付ける場が必要。清須学に期待をする。情報だけでなく実際に体感することも重要である。何を伝えるべきか主旨をきちんと持って、継続的に取り組んでほしい。
平野委員	世の中の流れとして、若者の出会い・結婚には行政の支援が必要な時代となっている。身内が少なくなり、子育てにも他人との交流が有効な場合がある。実効性のある支援施策とするには、関連施設の開館日を利用者の立場で考える等、配慮が求められる。
【内田座長総括】	
基本目標を示すイメージ図の役割は大きいので、感覚的にわかりやすく、伝わりやすい表現に工夫してほしい（城をモチーフに、目標をのぼり旗で示す等）。若者世代はバーチャルな空間、体験に偏りがちなので、リアルな経験や学びの場を提供することも重要である。若者世代の誘導をうまく実現すれば、清須市独自の取組として差別化も期待できる。	

(2) その他

- 第3回、4回戦略提言会議の日程調整について

3 閉会